

高齢者福祉課

認知症高齢者が安心して暮らすために

庄原警察署と認知症高齢者等の支援に係る相互連携協定を締結

3月10日、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進することを目的に、庄原警察署と「認知症高齢者等の支援に係る庄原警察署と庄原市の相互連携に関する協定」を締結しました。

庄原警察署と市は、平成27年9月に「要支援高齢者情報ネットワーク」を構築し、高齢者が行方不明になった際に氏名や服装などの個人情報共有してまいりました。今回の協定では情報共有するケースを緊急時以外にも拡大し、認知症の人の把握や、支援業務の円滑化を図ります。

具体的には、庄原警察署は、迷い人などの相談や、認知症高齢者から運転免許証の更新、自主返納、詐欺の相談を受けた際などに、本人または家族の同意を得て、市に相談内容の情報を提供します。市は免許返納や消費生活などの相談があった際、本人または家族の同意を得て、庄原警察署に必要な情報を提供します。

情報を得た市と庄原警察署は、協定に基づき、連携協力して認知症高齢者などへの相談・支援を行うこととしています。



協定書に署名する木山市長(左)と山田博實庄原警察署長

連携項目

- ① 認知症高齢者などの支援施策における連携および連絡体制の構築
- ② 支援を要する認知症高齢者などに関する情報の共有
- ③ 認知症高齢者支援の啓発活動や研修などへの資料提供および講師派遣
- ④ その他、協定の目的を達成するために必要と認める活動

高野支所

自然に包まれた古民家をリノベーション

古民家宿泊施設「こごこ森」内覧会



こごこ森 外観

市と観光地域づくりに係る包括連携協定を締結している(株)瀬戸内ブランドコーポレーションが、高野町下湯川の築100年の古民家をリノベーションした、市内3カ所目の古民家宿泊施設「せとうち古民家ステイス Hiroshima こごこ森」が完成し、3月19日・20日に地域の人を招いて内覧会を行いました。

「こごこ森」の名称は、家の屋号「こごこ」と「森」の近くということから付けられました。

建物は、かやぶき屋根の裏側や、昔ながらの梁・柱を見ることができ、エタノールの火で暖を取る丸テーブルなどが整備されており、宿泊客は自然に包まれてゆったりと時間を過ごすことができます。



くつろげる寝室



内覧会の様子

会場を訪れた下湯川自治会の藤原祐博会長は「素晴らしい施設ができた。利用者のニーズを聞き、地元で話し合いながら、農業体験や地域交流などで、地域活性化を図っていききたい」と話していました。

「こごこ森」の宿泊受け付けは、内覧会終了後すぐに開始されました。